

第72回
サン・セバスティアン国際映画祭
新人監督部門ノミネート

第28回 釜山国際映画祭
A Window on Asian Cinema部門
招待作品

すべて、永遠じゃない。

霧の淵

川上村

三宅朱莉 三浦誠己 堀田真三
水川あさみ

監督・脚本 村瀬大智

プロデューサー 河原直美、グレート・吉岡アリエス、坂衣子
撮影 百々武、鎌倉英司、田中藤江立、奥田川節子
助監督 福崎賢治、製作担当 濱本敏治、美術 堀川節子
音楽 梅村和史、衣裳 山上順子、メイク 南辻美空、中野奈子
編集 唯野浩平、音楽 梅村和史、編集 藤野野依、田安仁
照明 手嶋智也、八十川和博、録音 増田浩彦
美術 藤本真由、監督助手 石井千秋、製作主任 藤原達昭
メイク 川部ヒカル、スチール 越谷綾二
製作 なら国際映画祭、助成 奈良県、川上村、奈良市

映画「霧の淵」公開記念展

入場料無料

会期 2024年4月6日～6月2日 10～17時（毎週水曜休館）
会場 匠の聚ギャラリー ☎ 639-3541 奈良県吉野郡川上村東川135
☎ 0746-53-2381 <https://takuminomura.gr.jp>



川上村で撮影された映画「霧の淵」。今作のため繰り返し川上村に滞在し脚本を書き上げた村瀬監督
川上村に移住した写真家 百々武 が映画の撮影を行った。両者の出会いや体験を写真、映像で構成します。
また、予告編動画、メイキング動画を会場で上映し作品世界を撮影地である川上村で体感いただけます。

第72回サン・セバスチャン国際映画祭の新人監督部門に最年少で選出、「奥深い日本の暮らしを描いている」と賛され、アジア最大規模の映画祭、以降も第28回釜山国際映画祭のA Window on Asian Cinema部門招待作品としてアジアプレミアを遂げた本作。

メガホンをとったのは、若手クリエイターの台頭、今、最も映画館で観てほしい監督・村瀬大智。本作での長編商業デビュー作品となる。

物語の舞台となった奈良県吉野にある川上村に村瀬監督自ら単独で長期滞在し、現地の人々との交流から生まれたこの物語は、実際にあるこの村で実際にある老舗旅館を舞台にどこか懐かしく、親しみのある目線で「家族の物語」を描いている。

奈良県南東部の山々に囲まれたある静かな集落。かつては商店や旅館が軒を並べ、登山客などで賑わったこの集落で、代々旅館を営む家に生まれた12歳のイヒカ。数年前から父は別居をしているが、母の咲は、父との結婚を機に嫁いだこの旅館を義理の父・シゲと切り盛りしている。そんなある日、シゲが姿を消してしまう。

旅館存続の危機が迫る中、イヒカの家族に変化の時がやってくる――。



三宅 朱莉 (イヒカ役)

この『霧の淵』という作品の出演が決まった時、喜び以上に驚きや不安がありました。それまで映画に出演した経験もなく、不安な気持ちもありました。ですが、いざ現場入りしてみると、監督さんやスタッフさん、共演者の方々が私のことをイヒカとして接してくれて、イヒカとして生活する事で、とても自然体で撮影に臨むことができました。奈良の川上村で過ごす、日常を切り取った様な暖かい作品です。ぜひ劇場でご覧ください。

水川 あさみ (イヒカの母・咲役)

奈良の川上村で住むようにして撮影した日々を思い出します。山で椎茸や山菜をとったり、薪で火を焚べたり、沸騰するお湯の湯気すら愛おしい時間でした。わたし演じる咲のモデルとなった朝日館の女将から、色んな話を伺う事で役が生きてきて映画に反映される。東京で暮らすわたしには全てが贅沢で素晴らしい経験でした。それぞれ登場人物の想いや葛藤はもちろんですが、雰囲気や匂い、そんなものまで感じてもらえたら嬉しいです。

三浦 誠己 (イヒカの父・良治役)

大好きな出演作が、またひとつ増えました。撮影現場で何度も映画が「育つ」瞬間を体験でき、また演技の中で導かれるように動く自分に鳥肌が立ちました。この映画は村瀬監督のもと、素晴らしいチームの力と奈良県川上村の方々の協力によって「育てられた」映画だと思っています。素晴らしい脚本が、撮影現場の様々なアンサンブルによって超越していく瞬間がありました。是非、映画館で「風の音」「森の匂い」を感じてください。

堀田 眞三 (イヒカの祖父・シゲ役)

令和4年3月23日、古来より神秘的力が宿り、悠久の歴史を誇る奈良県の奥吉野川上村、朝日館さんにてクランクインしました。峰にはまだ雪があちこちにあり、以来山全体吉野桜満開の絶景に至る大自然の元3週間撮影しました。安全成功祈願祭、さざれ石、てんから釣り、見事な苔・石垣、源流館、ジビエのロールキャベツ、鹿の焼き肉弁当春増さんのお話、撮影では百々カメラマンの笑顔に助けられ、尽きぬ想いばかりです。そして何よりの喜びは皆々さんに妻一く良くして頂け心豊かな毎日を過ごさせていただいた事です。『霧の淵』に関わる皆様、本当にありがとうございました。

村瀬 大智 監督

『霧の淵』は、川上村で川上村の皆さんと作った大事な映画です。2020年から川上村で長い時間を過ごさせてもらい、撮影も沢山の村民の方々に協力やご出演いただきました。そして『霧の淵』は、過疎化が進む村で老舗旅館を営む家族の映画です。この映画の舞台となった奈良県の川上村は、2018年には人口減少率では全国でワーストになってしまった村です。僕はこの村出身でもないし、縁もゆかりもありませんでした。言ってしまうえば他所者です。他所者には分からないこともあれば、他所者だからこそ感じるものもあります。村内の人が住まなくなってしまった集落、ダムの底へと続く旧道。かつての人々の生活の痕跡。何かを永遠に保存していきたい気持ちと衰退の過程の瞬間にある無常を美しいと思う矛盾した気持ちを抱きながら、この映画は出来上がりました。過去、現在、未来と、フレームの外へ伸びてゆく川上村での時間を体感していただけたら嬉しいです。

